

3年SSHクラス 最終成果発表会

1 目的

SSH クラスでの課題研究の成果をまとめ、外部指導者を招いて発表し、発表内容を協議することで思考力・判断力・表現力の深化を図る。

2 概要

(1) 対象

【発表】 3年1組 SSH クラス生徒

【聴講】 2年1組 SSH クラス生徒、本校職員

【指導・講評】

青木 悠樹（群馬大学数理データ科学教育研究センター センター長・教授）

渡辺 茂樹（高崎量子応用研究所 経営企画部 だいいちけんきゅうしつ 主幹研究員）

(2) 会場

翠巒会館ホール、レクチャールーム

(3) 日程

和7年7月10日（木）

13時00分～ 開会式

13時10分～ 課題研究成果発表・随時指導助言

15時10分～ 指導・講評 閉会

15時30分～ 評価・コメント入力

(4) 方法

プレゼンテーション6分、質疑・応答5分、入れ替え1分（合計12分）

(5) 発表テーマ

班	テーマ
1	人為的にはぐれてしまった蟻を助けるためには
2	不快なゴミから心地よい音を作る
3	風力発電により適した風レンズ風車について
4	自転車で斜めから段差をあがるときの限界角度
5	花粉症患者の体液で風媒花は受粉可能か
6	歩行者への車の水しぶき防止
7	会との中の関係
8	サッカーにおけるロングスローの物理解析
9	深めの接吻数問題
10	波返し護岸の構造を利用したこぼれにくい茶碗の作成
11	Dr.みまもりくん～異常検知モデルを用いた認知症早期発見～
12	ブランコを使って靴を遠くに飛ばすには

13	音による剣道の補助的な判定システム
14	ガチャガチャ型服薬リマインダー「おくすりタイムキーパー」の開発
15	DiscuScore～議論力を高めるためのプラットフォーム～
16	青果店の売上向上の為のデータ分析
17	ビート板ジャンプ
18	共お手つきジャッジメント
19	スペースをさがせ！



3 成果と課題

・これまでの発表経験を積み重ねる中で、生徒はスライド構成や話しぶりを段階的に改善し、情報の取捨選択や視覚的な分かりやすさを意識したスライド作成が行われるようになった。また、発表においても要点を押さえて簡潔に伝えようとする姿勢が定着した。その結果、発表ルーブリックの他者評価では、昨年度10月の発表会の平均が3.11、1月が3.25であったのに対し、最終成果発表会では平均3.27となり、ルーブリック評価3以上という目標を大きく上回った。

・1年半にわたる研究内容を6分間の発表にまとめることに難しさを感じている様子が見られた。聞き手に十分な理解をもたらすことのできなかった発表では、質問が出にくい様子も見られた。聞き手の理解が深まれば、質疑応答はさらに充実すると考えられる。発表時間の設定を含め、より良い発表形式を模索する余地がある。